令和７年度　専門（養護）試験問題

注意事項

１　試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

２　解答用紙の〔記入上の注意〕をよく読んで、間違いのないように記入してください。記入間違いがあると採点できません。

３　解答用紙には、解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入してください。マーク欄はマークしてください。

①　氏名欄

②　選考番号欄（受験票で確認してください。）

※　問題番号は、解答用紙の右下の問題番号一覧から、該当する２桁の番号を記入し、マークしてください。

③　試験問題欄

試験問題は、受験する試験問題の教科・科目を記入してください。

４　試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。

５　解答は、解答番号を確認しながら、解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、10 と表示のある問題に対して、ａと解答する場合は、次の（例）のように解答番号10の解答欄のａにマークしてください。

（例）

解答番号	解答欄
10	ⓐ ⓑ ⓒ ⓓ ⓔ

解答番号	解答欄
10	● ⓑ ⓒ ⓓ ⓔ

６　問題冊子の余白等は適宜利用して構いませんが、どのページも切り離してはいけません。

名古屋市教育委員会

令和７年度　　専門（養護）試験問題　　名古屋市教育委員会

解答は、すべて解答用紙に記入

選考番号	

1　次の文は、学校保健安全法施行規則（令和５年５月８日施行）第二十二条を抜粋したものです。（　①　）～（　③　）及び（　④　）～（　⑥　）に適する語句の組み合わせを、下のａ～ｅからそれぞれ１つ選び、記号で答えなさい。

学校保健安全法施行規則（令和５年５月８日施行）第二十二条　学校医の職務執行の準則は、次の各号に掲げるとおりとする。
一　学校保健計画及び（　①　）の立案に参与すること。
二　学校の環境衛生の維持及び改善に関し、（　②　）と協力して、必要な指導及び助言を行うこと。
三　法第八条の（　③　）に従事すること。
四　法第九条の保健指導に従事すること。
五　法第十三条の健康診断に従事すること。
六　法第十四条の疾病の予防処置に従事すること。
七　法第二章第四節の感染症の予防に関し必要な指導及び助言を行い、並びに学校における感染症及び（　④　）の予防処置に従事すること。
八　校長の求めにより、（　⑤　）に従事すること。
九　市町村の教育委員会又は学校の設置者の求めにより、法第十一条の健康診断又は法第十五条第一項の健康診断に従事すること。
十　前各号に掲げるもののほか、必要に応じ、学校における保健管理に関する専門的事項に関する指導に従事すること。
２　学校医は、前項の職務に従事したときは、その状況の概要を（　⑥　）に記入して校長に提出するものとする。

1

	①	②	③
a	健康診断計画	学校薬剤師	安全指導
b	学校安全計画	養護教諭	安全指導
c	健康診断計画	学校薬剤師	健康相談
d	学校安全計画	学校薬剤師	健康相談
e	学校安全計画	養護教諭	健康相談

2

	④	⑤	⑥
a	食中毒	救急処置	学校医執務記録簿
b	熱中症	就学時健康診断	学校医執務記録簿
c	食中毒	就学時健康診断	学校医職務記録簿
d	熱中症	救急処置	学校医執務記録簿
e	熱中症	救急処置	学校医職務記録簿

2　学習指導要領について、（1）～（3）の各問いに答えなさい。

（1）次の文は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」第1章　総則　第1款　高等学校教育の基本と教育課程の役割の一部抜粋です。正しい場合を○、誤りの場合を×としたとき、下線①～④及び⑤～⑧の○×の適する組み合わせを、下のａ～ｄからそれぞれ1つ選び、記号で答えなさい。

1　各学校においては、①学校保健安全法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、生徒の心身の発達の段階や特性、②課程や学科の特色及び学校や地域の実態を十分考慮して、適切な③週間過程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。

2　学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、第3款の1に示す主体的・④協働的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、次の(1)から(3)までに掲げる事項の実現を図り、生徒に生きる力を育むことを目指すものとする。

(1) 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、⑤行動力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の⑥生活習慣が確立するよう配慮すること。

(2) 略

(3) 学校における体育・健康に関する指導を、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と⑦豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科、家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科・科目及び⑧総合的な探究の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること。

3

	①	②	③	④
a	○	×	×	○
b	×	○	×	×
c	×	×	○	○
d	○	○	○	×

4

	⑤	⑥	⑦	⑧
a	×	○	×	×
b	○	○	○	×
c	×	×	○	○
d	○	×	×	○

（2）次の文は、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」の「第２章 保健体育科の目標及び内容」「第２節　各分野の目標及び内容」にある「保健分野」の「２　内容」の一部抜粋です。①・②の各問いに答えなさい。なお、〔　　〕に入る語句は各自推定するものとする。

(ｱ) 健康の成り立ちと疾病の発生要因

健康は、主体と環境を良好な状態に保つことにより成り立っていること、また、健康が阻害された状態の一つが疾病であることを理解できるようにする。また、疾病は、主体の要因と環境の要因とが相互に関わりながら発生することを理解できるようにする。

その際、主体の要因には、(　　)、(　　)、(　　)、(　　) などの素因と、生後に獲得された (　　)、(　　)、(　　) 及び (　　) を含む生活上の様々な習慣や行動などがあることを理解できるようにする。環境の要因には、温度、湿度や有害化学物質などの〔　　〕環境、ウイルスや細菌などの〔　　〕環境及び人間関係や保健・医療機関などの〔 A 〕環境などがあることを理解できるようにする。

① 主体の要因のうちの素因に当たる語句を、次のａ～ｅから１つ選び、記号で答えなさい。 5

ａ 運動　ｂ 睡眠　ｃ 食事　ｄ 免疫　ｅ 休養

② 文中の〔 A 〕に適する語句を、次のａ～ｅから１つ選び、記号で答えなさい。 6

ａ 医療的　ｂ 公衆衛生的　ｃ 地域的　ｄ 公共的　ｅ 社会的

（3）次の文は、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編」の「第２章 体育科の目標及び内容」「第２節　各学年の目標及び内容」にある「第３学年及び第４学年」の「２　内容」の一部抜粋です。①・②の各問いに答えなさい。

(ｲ) 思春期の体の変化

㋐ 思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの、男子はがっしりした体つきに、女子は丸みのある体つきになるなど、男女の特徴が現れることを理解できるようにする。

㋑ 思春期には、(　　)、(　　)、(　　)、(　　) が起こり、また、異性への関心も芽生えることについて理解できるようにする。さらに、これらは、個人差があるものの、〔 B 〕現象であることを理解できるようにする。

① 文中の (　　) 内に適さない語句を、次のａ～ｅから１つ選び、記号で答えなさい。 7

ａ 初経　ｂ 体重増　ｃ 精通　ｄ 変声　ｅ 発毛

② 文中の〔 B 〕に適する語句を、次のａ～ｅから１つ選び、記号で答えなさい。 8

ａ 第二次性徴期の　ｂ 思春期特有の　ｃ 発育・発達の
ｄ 大人の体へ変化する　ｅ 大人の体に近づく

3　保健管理について、（1）・（2）の各問いに答えなさい。

（1）次の文は、「児童生徒等の健康診断マニュアル」（日本学校保健会）から一部抜粋した、健康診断における耳鼻咽喉疾患の有無についての説明です。正しい場合を○、誤りの場合を×としたとき、下線①～③、④～⑥、⑦～⑨の○×の適する組み合わせを、下のａ～ｄからそれぞれ１つ選び、記号で答えなさい。

準備

器具等：額帯鏡、ヘッドライト、鼻鏡、耳鏡、舌圧子、絵図版（音声言語診断用）、側燈、トレイ等

＊器具の消毒については、①乾熱滅菌が望ましい。①乾熱滅菌を行う場合、当然のことながら検査器具は、児童生徒等の人数分を確保する必要がある。

場所：検査には側燈あるいはＬＥＤ等の光源を使用するが、場所全体がある程度②明るいことが望ましい。

＊③音声言語異常を検出するため、児童生徒等に音声を発せさせるので、静かな場所が要求される。そのため検査中は私語を慎むように指導する。

方法

1　児童生徒等が挨拶、名前を言う際には口元をよく観察する。

2　小学校低学年の児童には、器具に対する恐怖心を与えないような配慮が必要である。そのため、検査の順序として④鼻から始めるとスムーズにいくことが多い。⑤滲出性中耳炎の検出のために拡大耳鏡の使用が有効である。

3　口腔・咽頭の観察には⑥「おー」等の発声をさせると観察が容易である。

学校における健康診断で対象となる主な疾患と判定基準（一部抜粋）

部位	疾患異常名	内容
鼻	アレルギー性鼻炎（鼻アレルギー）	・粘膜の蒼白腫脹、⑦粘液性鼻汁等での他覚所見の明らかなもの。
	鼻中隔わん曲症	・わん曲が強度で鼻呼吸障害及び他の鼻疾患の原因になると思われるもの。
	⑧副鼻腔炎	・中鼻道、嗅裂に粘液性分泌物を認めるなど、一見してその所見の明らかなもの。鼻茸（鼻のポリープ）を含む。
	慢性鼻炎	・上記疾患以外で鼻呼吸障害及び⑨鼻汁過多が著明と思われるもの。

9

	①	②	③
a	○	×	×
b	×	○	×
c	○	○	○
d	×	×	○

10

	④	⑤	⑥
a	×	○	×
b	×	×	○
c	○	○	○
d	○	×	×

11

	⑦	⑧	⑨
a	○	×	○
b	○	○	×
c	×	○	○
d	×	×	×

（2）学校において予防すべき感染症について、①～③の各問いに答えなさい。

① 次の文に適する感染症名を、下のａ～ｅから１つ選び、記号で答えなさい。 12

全く症状のない人から、腹痛や血便を呈する人まで様々で、合併症として溶血性尿毒症症候群や脳症を併発し、時には死に至ることもある。日本では、平成９（1997）年に児童を中心とした広範な地域での集団感染や、平成23（2011）年に生肉（ユッケ）、平成24（2012）年に漬物を原因食とする、死亡例を伴う大規模な集団感染がみられており、毎年3,000～4,000例前後の発生が続いている。新型コロナウイルス感染症に対する感染対策で多くの感染症の報告数が減少した令和２（2020）～令和４（2022）年においても年間3,000例以上の発生が見られた。夏期に多発し、患者の約80％が15歳以下であり、小児と高齢者で重症化しやすい。

a ノロウイルス感染症　b 細菌性赤痢　c コレラ　d 腸管出血性大腸菌感染症
e ロタウイルス感染症

② 次の文は、腸チフスについての説明です。適さない文を、次のａ～ｅから１つ選び、記号で答えなさい。 13

a 潜伏期間：腸チフスは７～14日（３～60日）
b 感染経路：経口（糞口）感染
c 症状・予後：持続する発熱、発しん（バラ疹）等で発病する。重症例では腸出血や腸穿孔がある。診断は便と血液の細菌培養による。胆のうへの感染が持続しキャリアとなる場合がある。
d 予防法・ワクチン：手洗いの励行、消毒（トイレ等）、及び食品加熱と食品を良く洗うこと。流行国では、生水、氷、生の魚貝類、生野菜、カットフルーツ等の飲食を避ける。海外渡航者にワクチンを投与することがあるが、国内では接種可能なワクチンがない。
e 登校(園)基準:発症した後５日を経過し、かつ症状が軽快した後、１日を経過するまで出席停止とする。

③ 次の文は、サルモネラ感染症の説明です。正しい場合を○、誤った場合を×としたとき、下線①～③の○×の適する組み合わせを、下のａ～ｄから１つ選び、記号で答えなさい。 14

感染経路：家畜、は虫類、ペット等が保菌。感染は、①豚肉・牛肉等の食品を介した経口感染が多い。海外では、生牛乳を介した感染も報告されているが、日本では加熱殺菌乳のため、同様の事例はない。菌排出は数週間以上続くことがある。
予防法：調理者の手洗い、調理器具の洗浄、食品の加熱（中心部が②75℃、１分以上等、食中毒予防の各種ガイドラインに従う）。③ワクチンがある。

	①	②	③
a	×	○	×
b	○	○	○
c	×	×	○
d	○	×	×

4　児童生徒の心の健康について、（1）～（3）の各問いに答えなさい。

（1）次の文は、うつ病と双極性障害（躁うつ病）についての説明の一部です。（　①　）～（　③　）に適する語句の組み合わせを、下のａ～ｅから１つ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ番号は同じ語句とする。 15

うつ状態だけが現れるうつ病（単極性うつ病）に対して、うつ状態と躁状態の両方が現れるのが双極性障害（躁うつ病）であり、ともに、心のはたらきのうち「（　①　）」「（　②　）（思考を含む）」「（　③　）」の３つの領域に症状が現れ、睡眠や食欲にも影響する。正しい診断と治療には専門医（児童精神科医等）を受診する必要がある。

うつ病では、（　①　）が憂うつで何事も楽しめなくなり、自殺願望が現れることがあり（（　①　）の症状）、思考力や集中力が低下して、物事を悲観的に受け取り、自信を喪失しやすく（（　②　）の症状）、勉強、運動、遊びのいずれの領域でもやる気が出なくなる（（　③　）の症状）。これらに伴い、活動量の低下や引きこもりがみられやすい。

	①	②	③
a	気分	意欲	認知
b	意欲	認知	気分
c	意欲	気分	認知
d	認知	気分	意欲
e	気分	認知	意欲

（2）　次の文は、双極性障害についての説明の一部です。正しい場合を○、誤った場合を×としたとき、下線①～③の○×の適する組み合わせを、下のａ～ｅから１つ選び、記号で答えなさい。 16

双極性障害は、うつ状態と躁状態が交互に現れるのが特徴である。強い躁状態とうつ状態（大抵は軽度）を繰り返す双極１型と、軽度の躁状態と強いうつ状態を繰り返す双極２型がある。双極２型はうつ病と間違われやすいが、①うつ病と治療法はほぼ同じである。

双極性障害では、うつ状態にはうつ病とほぼ同じ症状が現れるが、②過眠よりは、睡眠の短縮（早期覚醒など）になりやすい。躁状態の症状には、爽快な気分（気分高揚）、頭にたくさんの考えが浮かぶ、何でもできそうな気がする（万能感）、③睡眠時間が短くても疲れを感じないなどがある。

	①	②	③
a	×	○	×
b	×	×	○
c	×	×	×
d	○	○	○
e	○	×	×

（3）次の文は、子どもの双極性障害についての説明です。文中の（　①　）～（　③　）に適する語句の組み合わせを、下のａ～ｅから１つ選び、記号で答えなさい。 17

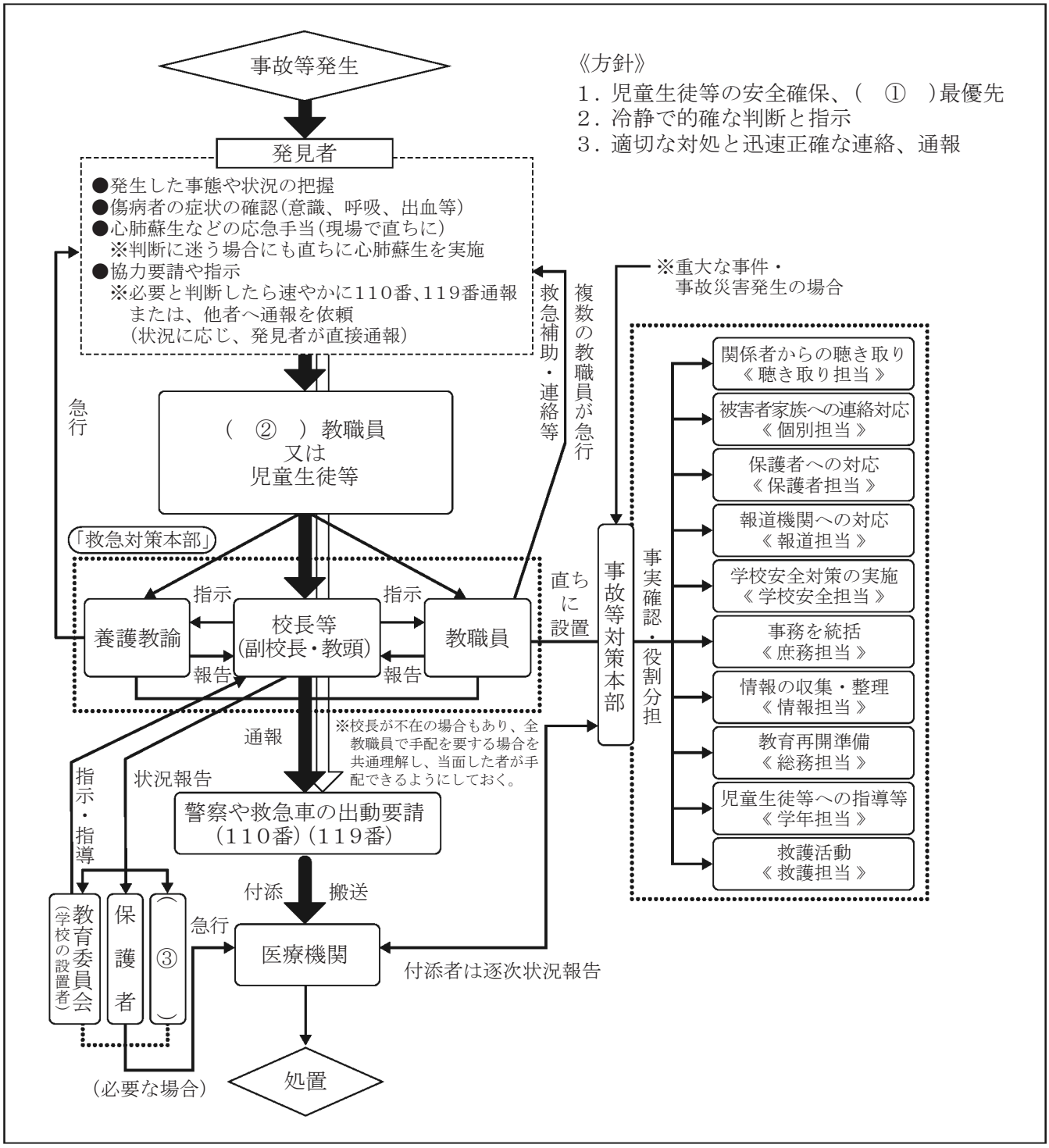
子どもの場合、そう快な気分ではなく、イライラや怒りっぽさ、（　①　）などが現れやすく、問題行動が誘発されやすい。

さらに、躁状態とうつ状態が入り混じった“混合状態”が出現することもあり、躁状態とうつ状態の両方が１日の中で交代する（急速交代型）子どももいる。

また、子どもの場合、躁状態や混合状態で幻覚（主に幻聴）や（　②　）が現れやすいのが特徴である。手首自傷、多量服薬、感情の（　③　）（激情発作）が現れやすいのも子供の双極性障害（特に躁状態と混合状態）の特徴である。

	①	②	③
a	衝動性	妄想	爆発
b	衝動性	フラッシュバック	麻痺
c	心理的退行	妄想	麻痺
d	衝動性	フラッシュバック	爆発
e	心理的退行	フラッシュバック	爆発

5　次の図は、「学校事故対応に関する指針【改訂版】」（文部科学省）より一部抜粋した「事故等の対処、救急及び緊急連絡体制の一例」です。図中の（　①　）～（　③　）に適する語句を、下のａ～ｅからそれぞれ１つ選び、記号で答えなさい。



（　①　）　18

a	学力向上	b	学習活動	c	生命維持	d	健康確保	e	障害防止

（　②　）　19

a	親しい	b	担当する	c	手が空いている	d	近くの	e	体力のある

（　③　）　20

a	近隣学校	b	福祉機関	c	学校薬剤師	d	学校医	e	保健センター

6　学校保健安全法について、（1）・（2）の各問いに答えなさい。

（1）次の文中の（　①　）～（　③　）に適する語句の組み合わせを、下のａ～ｄから１つ選び、記号で答えなさい。 21

> 第４条　（　①　）は、その設置する学校の（　②　）の心身の健康の保持増進を図るため、当該学校の施設及び設備並びに（　③　）の整備充実その他の必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

	①	②	③
a	学校の設置者	児童生徒等及び職員	管理運営体制
b	文部科学大臣	児童生徒等及び職員	学校安全体制
c	文部科学大臣	児童生徒等	管理運営体制
d	学校の設置者	児童生徒等	学校安全体制

（2）次の文中の（　①　）～（　③　）及び（　④　）～（　⑥　）に適する語句の組み合わせを、下のａ～ｄからそれぞれ１つ選び、記号で答えなさい。

> 第６条　（　①　）は、学校における（　②　）、採光、照明、保温、清潔保持その他環境衛生に係る事項について、（　③　）の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準（以下この条において「学校環境衛生基準」という。）を定めるものとする。
> ２　（　④　）は、学校環境衛生基準に照らしてその設置する学校の適切な環境の維持に努めなければならない。
> ３　（　⑤　）は、学校環境衛生基準に照らし、学校の環境衛生に関し適正を欠く事項があると認めた場合には、（　⑥　）、その改善のために必要な措置を講じ、又は当該措置を講ずることができないときは、当該学校の設置者に対し、その旨を申し出るものとする。

22

	①	②	③
a	学校の設置者	騒音	児童生徒等及び職員
b	学校の設置者	換気	児童生徒等
c	文部科学大臣	騒音	児童生徒等
d	文部科学大臣	換気	児童生徒等及び職員

23

	④	⑤	⑥
a	文部科学大臣	校長	計画的に
b	学校の設置者	学校薬剤師	計画的に
c	学校の設置者	校長	遅滞なく
d	学校	学校薬剤師	遅滞なく

7 （1）～（3）の各問いに答えなさい。

（1）次の図１は、前方から見た膝関節です。（　①　）～（　④　）に示す骨のうち、脛骨に適するものを、下のａ～ｄから１つ選び、記号で答えなさい。 **24**

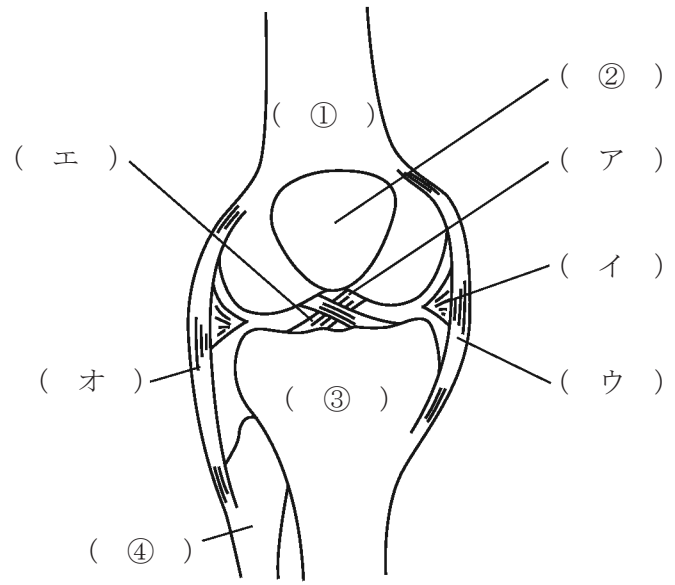


図１

a　①　　b　②　　c　③　　d　④

（2）次の文中の（　①　）～（　③　）に適する語句の組み合わせを、下のａ～ｄから１つ選び、記号で答えなさい。 **25**

上肢や下肢の関節は骨と骨の連結部分であり、この関節の運動によっていろいろな動作や身体活動ができることになります。個々の関節はそれぞれ役割に応じた形態になっていて、役割に応じた動きや可動範囲があります。関節の一定範囲内の正常な動きを保つため、また無理な外力に抵抗するために骨と骨をつなぎとめている強くて丈夫な結合組織の束が（　①　）です。

関節内には関節面を適合させるための（　②　）や、関節面を固く結ぶための（　③　）があります。

	①	②	③
a	靭帯	関節半月	関節内靭帯
b	腱	関節内靭帯	関節半月
c	靭帯	関節内靭帯	関節半月
d	腱	関節半月	関節内靭帯

（3）上の図１の（　ア　）～（　オ　）のうち、「内側側副靭帯」に適するものを、次のａ～ｅから１つ選び、記号で答えなさい。 **26**

a　ア　　b　イ　　c　ウ　　d　エ　　e　オ

8　食物アレルギー、アナフィラキシーについて、（1）・（2）の各問いに答えなさい。

（1）次の文中の（　①　）～（　④　）に適する語句の組み合わせを、下のａ～ｄから１つ選び、記号で答えなさい。 27

（　①　）、（　②　）、小麦などの主な原因食物は年齢を経るごとに耐性獲得（食べられるようになること）することが知られています。ただ、ピーナッツ、（　③　）、（　④　）、魚類などの耐性獲得率はあまり高くないことが知られています。

	①	②	③	④
a	鶏卵	甲殻類	ソバ	牛乳
b	果物	牛乳	鶏卵	甲殻類
c	果物	甲殻類	鶏卵	牛乳
d	鶏卵	牛乳	ソバ	甲殻類

（2）次の文中の（　①　）～（　④　）と、（　⑤　）～（　⑧　）に適する語句の組み合わせを、下のａ～ｄからそれぞれ１つ選び、記号で答えなさい。

学校生活管理指導表から得られる情報で児童生徒等の症状誘発リスクやアナフィラキシーのリスクを評価すると発症可能性が高い順に、（　①　）＞（　②　）＞（　③　）＞（　④　）＞未摂取です。また、食物ごとに、アナフィラキシーの頻度は異なり、（　⑤　）はアナフィラキシーを起こしにくい一方、（　⑥　）、（　⑦　）、（　⑧　）は症状が出たときにアナフィラキシーを含む重篤な症状を起こしやすいことが分かっています。

28

	①	②	③	④
a	アナフィラキシーの既往あり	明らかな症状の既往	食物経口負荷試験陽性	検査結果陽性
b	食物経口負荷試験陽性	検査結果陽性	アナフィラキシーの既往あり	明らかな症状の既往
c	アナフィラキシーの既往あり	食物経口負荷試験陽性	明らかな症状の既往	検査結果陽性
d	検査結果陽性	食物経口負荷試験陽性	アナフィラキシーの既往あり	明らかな症状の既往

29

	⑤	⑥	⑦	⑧
a	小麦	鶏卵	牛乳	ソバ
b	鶏卵	小麦	牛乳	ソバ
c	ソバ	鶏卵	小麦	牛乳
d	牛乳	鶏卵	小麦	ソバ

9　熱中症について、（1）～（3）の各問いに答えなさい。

（1）次の式は、暑さ指数（ＷＢＧＴ）の屋外で日射のある場合の算出式です。（　①　）～（　③　）に適する語句の組み合わせを、下のａ～ｅから１つ選び、記号で答えなさい。 30

ＷＢＧＴ＝0.7 ×（　①　）＋0.2 ×（　②　）＋0.1 ×（　③　）

	①	②	③
a	黒球温度	湿球温度	乾球温度
b	湿球温度	乾球温度	黒球温度
c	乾球温度	黒球温度	湿球温度
d	黒球温度	乾球温度	湿球温度
e	湿球温度	黒球温度	乾球温度

（2）次の文は、環境省が発表する「熱中症警戒情報（熱中症警戒アラート)」についての説明です。（　　）に適する数値を、下のａ～ｅから１つ選び、記号で答えなさい。 31

熱中症の危険性に対する「気づき」を促すものとして、府県予報区等内において、いずれかの暑さ指数情報提供地点における、翌日・当日の日最高暑さ指数（ＷＢＧＴ）が（　　）（予測値）に達する場合に発表します。

a　30　　b　33　　c　35　　d　37　　e　40

（3）次の文は、「学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き」（環境省・文部科学省）学校現場等での熱中症事故対策の取組を効率的に確認できるチェックリストから一部抜粋したもので、「日頃の環境整備等」と「活動中・活動直後の留意点」が混在しています。これらのうち、「日頃の環境整備等」に適するものを、次のａ～ｅから１つ選び、記号で答えなさい。 32

a　児童生徒等の発達段階によっては、熱中症を起こしていても「疲れた」等の単純な表現のみで表すこともあることに注意する。
b　活動(運動)の指導者は、児童生徒等の様子やその他状況に応じて活動計画を柔軟に変更する。(運動強度の調節も考えられる。)
c　児童生徒等が分散している場合、緊急事態の発見が遅れることもあるため、特に熱中症リスクが高い状況での行動には注意する。
d　危機管理マニュアル等で、暑熱環境における活動中止の基準と判断者及び伝達方法を予め定め、関係者間で共通認識を図る。(必要な判断が確実に行われるとともに関係者に伝達される体制づくり)
e　運動を行った後は体が熱い状態となっているため、クールダウンしてから移動したり、次の活動（登下校を含む）を行うことに注意する。

10　医療的ケアについて、（1）・（2）の各問いに答えなさい。

（1）次の文は、「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」（令和３年）の基本理念を示した第３条です。文中の（　①　）～（　③　）に適する語句の組み合わせを、下のａ～ｅから１つ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ番号は同じ語句とする。 33

> 第三条 医療的ケア児及びその家族に対する支援は、医療的ケア児の日常生活及び（　①　）を社会全体で支えることを旨として行われなければならない。
> ２　医療的ケア児及びその家族に対する支援は、医療的ケア児が医療的ケア児でない児童と共に教育を受けられるよう（　②　）配慮しつつ適切に教育に係る支援が行われる等、個々の医療的ケア児の年齢、必要とする医療的ケアの種類及び生活の実態に応じて、かつ、医療、保健、福祉、教育、労働等に関する業務を行う関係機関及び民間団体相互の緊密な連携の下に、切れ目なく行われなければならない。
> ３　医療的ケア児及びその家族に対する支援は、医療的ケア児が十八歳に達し、又は高等学校等を卒業した後も適切な保健医療サービス及び福祉サービスを受けながら日常生活及び（　①　）を営むことができるようにすることにも配慮して行われなければならない。
> ４　医療的ケア児及びその家族に対する支援に係る施策を講ずるに当たっては、医療的ケア児及びその保護者（親権を行う者、未成年後見人その他の者で、医療的ケア児を現に監護するものをいう。第十条第二項において同じ。）の意思を（　②　）尊重しなければならない。
> ５　医療的ケア児及びその家族に対する支援に係る施策を講ずるに当たっては、医療的ケア児及びその家族がその（　③　）にかかわらず等しく適切な支援を受けられるようにすることを旨としなければならない。

	①	②	③
a	学校生活	最大限に	経済状況
b	社会生活	最大限に	居住する地域
c	学校生活	可能な範囲で	経済状況
d	学校生活	最大限に	居住する地域
e	社会生活	可能な範囲で	居住する地域

（2）次の文は、令和４年度学校における医療的ケアに関する実態調査結果（令和５年３月文部科学省）の一部抜粋です。①・②の各問いに答えなさい。

> 特別支援学校において実施されている医療的ケアは、延べ30,808件であり、行為別にみると、喀痰吸引（口腔内）5,075件、喀痰吸引（鼻腔内）5,000件、〔　A　〕4,856件、喀痰吸引（気管カニューレ内部）3,124件の順に多い。
> 幼稚園、小・中・高等学校において実施されている医療的ケアは、延べ3,213件であり、行為別にみると、〔　B　〕619件、導尿570件、喀痰吸引（気管カニューレ内部）380件、経管栄養（胃ろう）323件の順に多い。

①　特別支援学校における〔　A　〕に適する語句を、次のａ～ｅから１つ選び、記号で答えなさい。 34

> a　経管栄養（胃ろう）　b　導尿　c　吸入・ネブライザー
> d　気管切開部の管理　e　血糖値測定・インスリン注射

②　幼稚園、小・中・高等学校における〔　B　〕に適する語句を、次のａ～ｅから１つ選び、記号で答えなさい。 35

> a　喀痰吸引（口腔内）　b　喀痰吸引（鼻腔内）　c　吸入・ネブライザー
> d　気管切開部の管理　e　血糖値測定・インスリン注射

解答一覧表(養護)

養護教諭

問題番号			解答番号	正答
大問	中問	小問		
1			1	d
			2	a
2	(1)		3	b
			4	c
	(2)	①	5	d
		②	6	e
	(3)	①	7	b
		②	8	e
3	(1)		9	d
			10	a
			11	c
	(2)	①	12	d
		②	13	e
		③	14	a
4	(1)		15	e
	(2)		16	b
	(3)		17	a
5		①	18	c
		②	19	d
		③	20	d
6	(1)		21	a
	(2)		22	d
			23	c
7	(1)		24	c
	(2)		25	a
	(3)		26	c
8	(1)		27	d
	(2)		28	c
			29	b
9	(1)		30	e
	(2)		31	b
	(3)		32	d
10	(1)		33	b
	(2)	①	34	a
		②	35	e